

学校番号	23
学校名	富山県立大門高等学校

学校の現状と課題	本校は、普通科情報コースを備える普通科単独校として、情報コースを中心とする情報教育・環境教育・国際理解教育を推進し実践している。授業では、基礎基本の習熟を図りながら生徒が自ら考え判断する力の養成を図っている。しかし、近年の傾向として、将来の目標実現のために積極的に立ち向かおうとする意欲やたくましさが増えている。そのため、生徒自らが自己の潜在する能力を啓発し、自ら設定した目標に向け、早期から意欲的に取り組むことができるようにすることが重要と考え設定した。	
テーマ(特色)	キャリア教育の推進(進路実現と人間力の育成)	
設定した「テーマ」の達成状況	4つの柱に関連した探究活動や進路探究活動をとおして、生徒に自らの課題を認識させ、それを解決することで本校が伸ばしたい資質能力である6つの力「自ら学ぶ力」、「深く考える力」、「創造する力」、「主体的に行動する力」、「人間関係を形成する力」、「地域に貢献する力」の育成を図り、年度末に生徒の自己評価である大門GP(グラデュエーション・ポリシー)を実施する。	
実施内容 (具体的に記入する)	<p>①保健に関する講演会(1,2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学年は臨床心理士・公認心理師山藤奈穂子氏による、「自分の脳を使いこなせ！～脳の取扱説明書&パフォーマンスを高めるマインドフルネス～」の演題で、2学年は講師に富山大学学術研究部医学系 疫学・健康政策学講座准教授山田正明氏による「医師から見た子どものネット依存」の演題でそれぞれ講演を実施した。 <p>②探究活動講座(1,2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学年は「夢発見だいもんあなたの魅力発見」の演題で株式会社プレステージ・インターナショナル 富山BPOタウンの山下鮎美氏による講演を行った。 2学年は国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の鏡味沙耶氏を招き、自己啓発についての講演を実施した。また、工学分野では、二足歩行ロボット競技会指導者の中村英樹氏を招き実際にロボットの実演を行った。 <p>③進路ガイダンス(1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文系・自己啓発、理学分野・研究活動、工学分野・ものづくり、看護・創業の各分野で大学の専門の先生を講師に招き将来の進路選択に必要な知見を提供し、自己分析の機会を設けた。 <p>④卒業生に学ぶ座談会(1,2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の卒業生で、大学に在学中の学生を講師に招き、進路選択のきっかけや高校時の過ごし方、大学生生活の紹介などをテーマに座談会を行った。 <p>⑤国際理解講座(1,2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> JICA海外青年協力隊でセントルシアで活動経験のある方を講師に招き、異文化や海外の生活に対する理解を深めることの重要性や海外で生活する心構えなどについて講演を実施した。 	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<p>本校のプロジェクトは、学校の設定した「大門高等学校グランドデザイン」に基づきグラデュエーション・ポリシーとして育てたい資質能力を6つ設定し、それを育成するために体系的に計画した取り組みである。それを育成するための本校のカリキュラム・ポリシーである4つの柱(情報・国際・環境・地域)の教育活動で育成するものである。今年度は、2学年の進路研修旅行を実施することができ、教育活動も本格化し始めたところである。取り組みの成果として、生徒が他人とのかわりやふれあいをもつ機会が増え、自分の将来像から各人が人間としての在り方・生き方を考えるきっかけを持った。そこから、本校が掲げている6つの資質である「深く考える力」や「創造する力」、「人間関係を築く力」を育てる一助とすることができた。具体的には、次のような成果があげられる。</p> <p>[保健に関する講演会]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「健康づくりを自らの手で」行う意識を高めることで、生活のリズムや体調を崩さないことや学校生活に適應する能力を養うことができた。 <p>[探究活動講座]</p> <ul style="list-style-type: none"> 夢を持つことの大切さやそれに向かって努力をする必要性があることを学んだ。 社会で生きて行くために必要な能力や職業と大学で学ぶ学問との関連性が理解できた。 <p>[進路ガイダンス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンスの進行や運営を生徒自らが行うことで自律的な意欲・態度が育った。 自己を分析する機会を得ることで、進路選択の際に必要な素養を知ることができた。 生徒が学習時間や学習習慣、学習状況の振り返りを行うことで自分の学習の実態がわかり、意欲的・主体的に学習することの重要性を確認することができた。 受験の基礎知識や受験に向けての心構えなどについて理解し、進路に関する意識の向上が図られた。 進路および職業選択について知るとともに、自分自身の将来に対する考えを深めた。 <p>[卒業生に学ぶ座談会]</p> <ul style="list-style-type: none"> 受験に向けて、日々の学習の大切さと工夫の必要性を学んだ。 進路選択は具体的な仕事内容や自分の適性を知ることが、適切な進路選択につながることを知った。 大学へ進学しても「学び」の姿勢は大切であることがわかった。 <p>[国際理解講座]</p> <ul style="list-style-type: none"> その国の文化を受け入れ理解しようとする姿勢が大切であることを学んだ。 海外で生活する場合は、積極性が重要で、コミュニケーションすることや学び知識を増やすことが大切であることを学んだ。 	
対象者(学年・人数など)	第1・2学年(234名)	
実施実績	4月	
	5月	
	6月	①保健に関する講演会(1,2年)
	7月	②探究活動講座(2年)、③進路ガイダンス(1年)
	8月	④卒業生に学ぶ座談会(1,2年)
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	②探究活動講座(1年)、⑤国際理解講座(1,2年)
	1月	
	2月	
	3月	